新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

シジュウカラ第86号

§　野鳥観察の魅力を発信！　愛鳥学習会を開催しました　§

3月5日(日)に新潟県立生涯学習推進センター大研修室を会場に「愛鳥学習会」を開催しました。2回目となる今回は 49 名から参加をいただきました。最初に、「にいがた市民ハクチョウ調査の取り組みについて」と題して、平成 26 年度に制定された新潟市の鳥「ハクチョウ」について、制定までの経緯や PR 事業として実施したイベント、にいがた市民ハクチョウ調査のようすについて新潟市環境部環境政策課小林博隆氏から講演いただきました。

新潟市はコハクチョウの越冬数が全国1位というだけあって、市の鳥総選挙ではハクチョウが断トツ1位だったようです。そのハクチョウを PR するために、新潟市ではバスツアーを行ったり、市内の小学校や市民から報告を募集するハクチョウ調査を実施してきました。市の鳥がハクチョウという認知度はまだまだ高くないとのことでしたが、これまでの調査結果やハクチョウの魅力をまとめたハクチョウガイドブックの作成など、今後の取り組みについてもお話いただきました。

ハクチョウ調査を紹介！ 小林氏

野鳥観察のコツを紹介! 菅原氏

続きまして、「身近な野鳥の楽しみ方」と題し、月刊「BIRDER」にて、「鳥好き人の地球の渡り方」を連載している、フォトグラファー菅原貴徳氏から、野鳥のとりこになったきっかけから始まり、見つけ方のコツや行動観察のおもしろさなど、身近な野鳥の楽しみ方を分かりやすくご紹介いただきました。

日本でも海外でも街の近くで暮らす鳥たちは意外に多く、日々の生活の中でちょっとしたことに気づくだけで見つけられること、鳥たちはエサによって食べる音も違うこと、なぜ鳴いているのかを考えれば観察がもっと深くなるなど、身近な鳥を楽しむためのポイントにはハッと気づかされるお話も多くありました。日本だけでなく世界各地を回って活躍されているフォトグラファーとしての写真の数々も素晴らしく、参加者一同じっくり見入っていました。最後は、身近な野鳥の生活を追うことで、住んでいる地域の環境変化の気付きとなることも教えてくれました。

§“着任のご挨拶”　　所長　　伊藤　浩　§

この４月に赴任しました伊藤浩です。前任地の長岡地域振興局健康福祉環境部生活衛生課では、食品衛生、環境衛生、動物愛護等に関する業務を行ってまいりました。

着任より一月が過ぎましたが、晴れた日は少し早めに出勤し、愛鳥センターの周りで鳴き交わす鳥たちの声を聞きながら小一時間、探鳥路を散策しています。この時期は一日ごとに木々の情景が変化し、また鳥たちの顔ぶれも変わるので楽しく歩けます。こちらにお越しの際は、ぜひ探鳥路にもお立ち寄りください。ただし、ウルシの樹がとても多いので、十分にお気をつけください。

現在、県内に３８校ある愛鳥モデル校では、様々な保護活動を行っていただいていますが、私も小学生の時には、学校裏の保安林に設置されている野鳥の水場の清掃や巣箱作りを行い、また、中庭で飼育していたオオハクチョウやヒシクイを世話していました。

愛鳥センターでは、職員がいろいろな展示物を作成し、楽しく鳥のことを知ってもらえるよう工夫しています。もし、その頃にこんな施設が近くにあれば、楽しかっただろうと思いながら、さらにどんな展示ができるか職員と相談しながらいろいろな事業を進めていきたいと考えていますので、お越しの際はお声をかけていただき、皆様のアイデア等をお話しいただければありがたいと思います。

しばらくは今日が何曜日かを確認しつつ、探鳥路で出会える鳥を楽しみながら、すこしでもホームページで鳥たちの生活を紹介できるようにしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

§　新潟県野鳥保護の集い（瓢湖）　§

2月19日(日)に阿賀野市の瓢湖で「新潟県野鳥保護の集い」を開催しました。(参加者：86名)

探鳥会

オナガガモやヒドリガモ、キンクロハジロがひしめく中、美しいミコアイサや少し珍しいトモエガモなども見られました。奥の観察舎からは枝に止まるノスリが観察でき、児童からは「かっこいい！」という声があがっていました。また、ハンノキに隠れるように止まっているオジロワシも垣間見ることができました。愛鳥モデル校の水原小学校から児童と学校関係者が30名参加しました。

野鳥保護の集い

平成28年度野鳥写真展表彰式には8名の方にご出席いただきました。また、会場には入賞作品全17点を展示し、多くの参加者からご覧いただきました。

探鳥会の結果整理は、新潟県野鳥愛護会の山田清副会長にお願いしました。1月15日に行われた県内22か所のガンカモ類の生息調査では、直前の大雪の影響かカモ類の数が昨年度より半数以下に減り（特にコガモが極端に減少)、ハクチョウ類も若干減少したとのことでした。

休憩をはさんで、「瓢湖の白鳥を守る会」事務局長の佐藤巌氏より「これからの瓢湖について…一私見」と題し、なぜハクチョウや瓢湖を守るのか？について、約30年に亘って瓢湖で活動をされてきた立場からお話いただきました。豊かな自然のシンボルで、国の天然記念物にもなっている瓢湖のハクチョウは、早くからの法的整備や地元住民の方々からの理解など様々な協力があって現在に至っているとのこと、吉川父子の給餌の歴史、餌付けと給餌は異なること、ハス・ヒシ刈りの様子など様々な視点から瓢湖とハクチョウの関わりについて解説いただきました。続いて、新潟県野鳥愛護会の千葉晃副会長に各地の冬鳥情報を紹介いただきました。この冬も魚沼や松之山、上越（朝日池)、中之島、出雲崎、下越、佐渡など各地で貴重な野鳥達が確認されたそうです。素晴らしい写真の数々に会場一同、目を凝らしました。

探鳥会の様子

§よろしくお願いします。　獣医師　井上真千子　§

「愛鳥センター紫雲寺さえずりの里」で働き始めてはや1ヶ月半、鳥（鶏）は食べる以外縁がなかった私にとって、野鳥の救護という仕事は毎日が新鮮です。

最初に救護棟で待っていたのは翼のケガで飛べずにバタバタしているウミネコ。鋭いクチバシにつつかれないか、おそるおそる持ち上げて体の状態を診ます。

続いてやってきたのはトビの若鳥。空高く飛んでいるのを見たことはありますが、そばで見ると愛くるしい顔。骨折が痛々しいものの、触ってもおとなしく、「猛禽類は恐い」という私の先入観はふっとんでしまいました。

それにしても彼らは壮絶な宿命を背負って生きています。

飢えて死ぬかもしれない、強風にあおられ地面に叩きつけられて命を落とすかもしれない、そして食べられるかもしれない・・・。

しかし、どんな理由で最期を迎えたとしても、その命（身）が他の野生動物の食べ物となって、植物の栄養となって、命の連鎖が続いていくことに尊さを感じます。

病気やケガで死んでしまった、あるいは食べられて命を落としたとき、「かわいそう・・」というよりも「厳しい自然界でがんばって生きて偉かったね」と手を合わせたくなるような、畏敬の念がわいてくる、という

と言い過ぎなのかもしれませんが、少なくとも自然界で鳥になって生きる勇気は私にはありません。

話をセンターに戻して。

実は私は3月まで愛鳥センターの存在を知りませんでした。

見学に来た際、こんなすばらしい環境で野生動物（野鳥）を身近に感じられる施設があるなんて！と、とても感動しました。

もともと中学時代、レッドリスト（国際自然保護連合が作成した絶滅のおそれのある野生生物のリスト）を見て危機感を感じ、野生動物の保護がしたいと思って獣医師を志したもの、気づけば違う道を歩み、その気持ちさえ忘れていました。せいぜい保護団体に寄付をしたり、エコ商品を使って環境や野生動物に負荷をかけないよう気をつけてはいたものの、まさかこんなお仕事ができるなんて夢にも思っていませんでした。

まずはしっかりと救護ができるよう努め、野生復帰できる鳥が少しでも増えるよう模索したいと考えています。

そして当センターが県民の皆様にとって「憩いの場」として、「野鳥や自然とのお付き合いの仕方を考える場」として広く親しまれるよう、その一助を担えるよう努力して参りたいと思います。

§ 傷病鳥獣の収容状況 §

平成28年度　12月～3月の傷病鳥獣収容結果

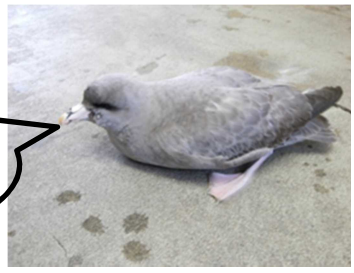
収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数	収容NO.	種類	11月末収容数	収容数	放鳥獣	譲渡返還	死亡	3月末収容数
（鳥類）								16	トビ	3	4	1		3	3
1	キジ		1			1	0	17	ハイタカ		1			1	0
2	コハクチョウ	5	8			9	4	18	オオタカ	1	1			2	0
3	オオハクチョウ	2	1			2	1		サシバ	1				1	0
4	マガモ	2	2	1		2	1	19	ノスリ	1	1	1			1
	カルガモ	3		1		1	1		クマタカ	1					1
5	コガモ		2	1		1	0	20	オオコノハズク		1			1	0
6	スズガモ	1	2			3	0		フクロウ	1				1	0
7	カイツブリ		1			1	0	21	トラフズク		1			1	0
8	アカエリカイツブリ		1	1			0	22	チョウゲンボウ		3	1		2	0
9	カンムリカイツブリ		2	2			0	23	ハヤブサ		1			1	0
10	キジバト		2	2			0		ハシボソガラス	1					1
11	シロエリオオハム		1			1	0	24	ヒヨドリ		1			1	0
12	フルマカモメ		1			1	0	25	トラツグミ		3			3	0
13	アオサギ		1			1	0	26	シロハラ		1	1			0
	ダイサギ	2					2	27	ツグミ		1	1			0
14	オオバン		1			1	0	28	ウソ		1			1	0
	アカエリヒレアシシギ	1				1	0	小計		27	48	13	0	44	18
15	ウミネコ		2			1	1	（獣類）							
	セグロカモメ	1					1								0
	オオセグロカモメ	1					1	小計		0	0	0	0	0	0
								合計		27	48	13	0	44	18

平成28年12月1日～平成29年3月31日までの収容数は、鳥類28種48羽、獣類0種0頭で、昨年度の同時期（鳥類105羽、獣類0頭）と比べ鳥類は減少した。

＜特記事項＞

・ フルマカモメ

平成29年1月15日、新発田市高島地内の庭で保護され、翌日センターに収容された。
強風で内陸地へ飛ばされ、衰弱していた様子。（骨折、外傷なし）
強制給餌を行い治療飼育に努めたが、翌16日に死亡した。
収容時の体重：465g
この個体は、平成20年収容以来、8例目。



フルマってノルウェー語で
「悪臭のするカモメ」
という意味なんだヨネ･･･

ヒナを拾わないで！

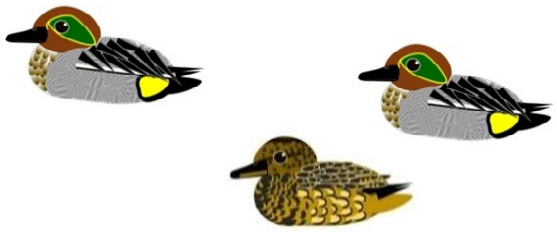
春から夏にかけては、野鳥たちの子育ての季節です。巣立ったばかりのヒナたちは、しばらくの間、親鳥と行動しながら飛び方やエサのとり方を身につけていきます。そんなとき、まだ上手に飛べないヒナが、地面に降りていることがあります。つい、手を差しのべたくなりますが、親鳥が近くにいます。ヒナを親鳥から引き離さず、子育てを見守ってください。ヒナを育てるのは親が一番なのです。

§12～3 月の探鳥会・観察会§

12/4（日）鳥屋野潟市民探鳥会　8:30～10:15　（晴れ）
場所：鳥屋野潟公園　参加者：69 名　観察種：48 種【①】
（にいがた野鳥の会・日本野鳥の会新潟県・新潟市 共催）

冬鳥がたくさん見られました

12/11（日）五十公野公園探鳥会は、
鳥インフルエンザ対応のため五十公野公園内の升潟周辺への立ち入りができなくなり、中止となりました。中止のお知らせが行き渡らず、会場にお越し下さった皆さまには大変申し訳ありませんでした。

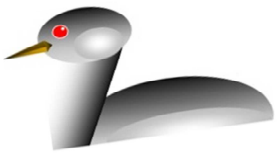


1/15（日）足跡ウォッチング　9:00～10:30（晴れのち曇り）
場所：愛鳥センター探鳥路　参加者：2 名
観察鳥種：4 種【②】　（紫雲寺記念公園グループ 共催）

2 日前から降り続いた雪が 50 センチほど積もっていましたが、探鳥路の一部を回って観察しました。哺乳類の足跡は発見出来ませんでしたが、シジュウカラやヤマガラなどが見られました。他に樹木の冬芽や虫こぶ、野鳥の足跡などを観察することができました。愛鳥センターに戻ってから、高橋講師より樹木に出来る虫こぶや冬芽などの説明をしていただきました。

講師から冬芽について説明していただきました

2/5（日）海鳥を見る会　9:00～10:50　（曇り）
場所：網代浜漁港～東港　参加者：14 名　観察種：35 種【③】



海鳥探してます！

穏やかなお天気で、海が荒れたときに港で多く見られるカモ類やカモメ類は少なめでした。しかし、網代浜漁港の沖合ではアビ数羽やハジロカイツブリ、スズガモなどが見られ、船着場付近ではアカエリカイツブリやカンムリカイツブリ、ウミアイサなども見られました。さらに進んでいくとミミカイツブリが出現。今回は 4 種類のカイツブリ類を見比べて確認できる絶好の機会となりました。さらになんと、非常に珍しいハイイロヒレアシシギが！遠くでしたが、なんとか皆で確認することができ、海鳥を満喫した探鳥会となりました。

3/12（日）ハクチョウを見送る会　9:00～10:45　（晴れ）

場所：お幕場大池　参加者：34名　観察種32種【④】

オナガガモやハシビロガモ、ユリカモメ、カモメなどが間近で観察でき、頭上を北上するハクチョウの群れも見ることができました。春の繁殖シーズンに向けてカップルで仲良くしているカモたちを横目に道を進むと、移動中のミサゴが3羽現れました。林の中ではホオジロが数羽さえずり、シジュウカラやカワラヒワも元気に鳴いていて、春の訪れを感じることができました。道中では、食べられたコガモなどの羽やペリットも発見！最後にはオオタカやミヤマガラス、カワウが立て続けに現れてくれました。

ハクチョウやカモ達はまだもう少し滞在中

探鳥会の観察種

No.	種名	①	②	③	④
1	ヒシクイ			●	
2	コハクチョウ	●			●
3	オオハクチョウ				●
4	オシドリ				●
5	ヒドリガモ	●		●	●
6	アメリカヒドリ			●	
7	マガモ	●		●	●
8	カルガモ	●		●	
9	ハシビロガモ			●	●
10	オナガガモ	●		●	●
11	トモエガモ	●			
12	コガモ	●		●	●
13	ホシハジロ	●		●	●
14	キンクロハジロ	●			●
15	スズガモ			●	
16	ホオジロガモ			●	
17	ミコアイサ	●			
18	ウミアイサ			●	
19	カイツブリ	●			
20	アカエリカイツブリ			●	
21	カンムリカイツブリ	●		●	
22	ミミカイツブリ			●	
23	ハジロカイツブリ			●	
24	キジバト	●			
25	アビ			●	

No.	種名	①	②	③	④
26	カワウ	●			●
27	ウミウ			●	
28	アオサギ	●			●
29	コサギ			●	
30	クイナ	●			
31	オオバン	●			
32	ユリカモメ				●
33	ウミネコ			●	
34	カモメ			●	●
35	セグロカモメ	●		●	
36	オオセグロカモメ			●	
37	ミサゴ	●		●	●
38	トビ	●		●	●
39	チュウヒ	●			
40	オオタカ				●
41	ノスリ	●			●
42	コゲラ	●	●	●	●
43	アカゲラ	●			
44	ハヤブサ			●	
45	モズ	●			
46	オナガ	●		●	
47	ミヤマガラス				●
48	ハシボソガラス	●		●	●
49	ハシブトガラス	●		●	●
50	コガラ	●			

No.	種名	①	②	③	④
51	ヤマガラ		●		●
52	シジュウカラ	●	●		●
53	ヒヨドリ	●	●		●
54	ウグイス	●			
55	エナガ	●			●
56	メジロ	●			
57	ミソサザイ	●			
58	ムクドリ	●			●
59	シロハラ	●			
60	ツグミ	●		●	
61	ジョウビタキ	●			
62	イソヒヨドリ			●	
63	スズメ	●		●	●
64	ハクセキレイ	●		●	●
65	セグロセキレイ	●			
66	アトリ	●			
67	カワラヒワ	●			●
68	ウソ	●			
69	ホオジロ				●
70	カシラダカ	●			●
71	アオジ	●			
72	オオジュリン	●			
	計	48	4	35	32

～愛鳥ブログより～

ただ今、愛鳥センターのホームページではブログを掲載中です。
公園の野鳥や自然にまつわることなど日々の情報をお知らせしています。
ここでは冬の記事の一部を紹介します！

2017年2月15日

愛鳥センターの中庭では、コゲラ数羽が元気に飛び回っています。写真のコゲラの頭にある赤色の羽、分るでしょうか？オスもメスも似たような色をしているコゲラですが、オスは後頭部の両脇に赤色の羽があるのが特徴です。ワンポイントおしゃれですね。

コゲラのオスです

2017年3月14日

朝、愛鳥センターの池でキンクロハジロのオスを発見！池や河川でよく見かけるキンクロハジロですが、愛鳥センター周辺ではここ10年で初確認です。移動の途中で立ち寄ってくれたのですね。

キンクロハジロ初確認

§　平成28年度野鳥写真展　§

平成28年度野鳥写真展は65名の方から250点の応募がありました。前年に比べて、応募者数は12名、応募作品数は41点多く出品されました。また、初参加者数も昨年の16名から22名と6名増加しました。

2年連続で金賞を受賞した安野邦夫氏の作品は、「五頭連峰のステージの中に展開される猛禽の王者オジロワシと、エサになるマガモの生態が見事に表現されており、構図がよい。主役のオジロワシの静とマガモの動の対比が良い。迫力や生命力を感じる。」と高く評価されました。また、全体的な評価として、「鳥の好きな人、写真を撮るのが好きな人が増えてきているのを実感する。よく観察して、よい表情を捉えており、色合いがきれいな写真が多かった。」とのことでした。

金賞：安野 邦夫 氏「狩り(オジロワシ)」

銀賞：山崎 悦子 氏

銀賞：中村 豊美子 氏

平成28年度野鳥写真展入賞者一覧

賞	タイトル(鳥名)	作者氏名	撮影場所(時期)
金賞	狩り（オジロワシ）	安野　邦夫	北蒲(12月)
銀賞	子育ては大変（エナガ）	山崎　悦子	西蒲・新潟(5月)
	仲好し小好し（メジロ）	中村　豊美子	西蒲・新潟(1月)
銅賞	子育て中(カンムリカイツブリ)	山崎　勝明	西蒲・新潟(6月)
	風薫る(ノジコ)	酒井　邦夫	北蒲(5月)
	ササゴイ	小沢　栄一	北蒲(6月)
特別賞	ミゾゴイＶＳゴイサギ	金子　俊彦	中頸(5月)
佳作	アオサギ	山田　幸司	佐渡(5月)
	自然界のサバイバル(アオサギ)	島田　俊男	西蒲・新潟(11月)
	捕まえたー（トビ）	今井　敏	北蒲(2月)
	アオゲラ	高橋　仁	西蒲・新潟(11月)
	ワカサギの香草添え(ヨシゴイ)	鹿間　裕行	北蒲(8月)
	獲物はどこだ(チョウゲンボウ)	安野　恵津子	北蒲(5月)
	反転降下(ハヤブサ)	佐藤　哲夫	岩船(6月)
	ミミズク(トラフズク)	佐々木　徹雄	中蒲原(6月)
	カルガモ	高橋　祐輔	西蒲・新潟(6月)
	雪原に佇む、オオワシ	阿部　繁	北蒲(1月)

◆　12～3月の来館者数

月	12月	1月	2月	3月	計	累計
来館者数	188	117	225	569	1,097	598,487

館内設置のトキ募金箱の報告

平成29年1月～平成29年4月　**3,583 円**

累計**２７５，２２５円**

みなさまの暖かい善意に深く感謝いたします。

今後ともご協力をお願いいたします。

新潟県愛鳥センター紫雲寺さえずりの里

開館時間：午前9時～午後4時

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合は翌平日）

〒957-0231 新発田市藤塚浜海老池

Tel 0254-41-4500／Fax 0254-41-4501

HP：http://www.pref.niigata.lg.jp/aicho/

E-mail：ngt035310@pref.niigata.lg.jp

９月までの行事予定

探鳥会《参加費、申込み不要です。現地集合･解散となります。双眼鏡や図鑑の貸出しがあります。》

・三光鳥を聞く会（剣龍峡集合）
　6/ 4（日）6:30～9:00
・シギ･チドリ観察会（聖籠町海のにぎわい館集合）
　8/27（日）9:00～11:00
・タカの渡りを見る会（剣龍峡集合）
　9/24（日）9:30～11:30

観察会ほか

・工作教室（愛鳥センター集合）
　7/30（日）　13:30～15:30　　定員20名
　※7/23（日）までに愛鳥センターへ
　お申込みください。
・巣箱作り教室（愛鳥センター集合）
　第1回　8/20（日）　13:30～16:00　定員8組
　第2回　8/26（日）　13:30～16:00　定員8組
　※第1回は8/13（日）までに
　第2回は8/20（日）までに
　愛鳥センターへお申込みください。
・マツムシの声を楽しむ会（愛鳥センター集合）
　9/ 2（土）　18:00～20:00

特別展

・夏休み特別展（愛鳥センター2階）
　7/15（土）～ 9/18（月・祝）
・愛鳥ポスター展（愛鳥センター2階）
　9/30（土）～10/29（日）